緊急時対応マニュアル

(管理区域外で放射性物質等が見つかった場合)

平成18年8月作成

本学における放射性物質の取り扱い

(1) 法令遵守

一般に放射性物質とは、放射線を出す物質の総称であり、その放射線によって引き起こされる障害を防止し、また周囲の安全を確保するため、それらの取扱いについては法律により厳重に規制されています。

そのため、関係法令や本学の諸規則に対する遵守違反があった場合は、放射線管理委員会などの関係機関へ報告され、処分の対象となりますのでご注意ください。

(2) 「管理区域」内でのみ可能

本学における放射性物質の取扱いは、医学部放射性同位元素実験施設、農学部放射性同位元素実験施設および医学部附属病院放射線施設の管理区域内(法で許可された場所)でのみ可能で、他の場所での使用や保管等は一切できません。

ただし、放射性物質のうち、ウラン、トリウムなどの核燃料物質と呼ばれる物質(電子顕微鏡使用時の試料染色に用いる)は、医学部と農学部の決められた場所では、使用や保管が許されています。・詳細は各放射性同位元素実験施設へお問い合わせ下さい。

(3) 持ち込み・持ち出し禁止

放射性物質等を、無許可で学内へ持ち込まないで下さい。

例えば、(国内外を問わず)前任地で放射性物質を取り扱っていた者が、それを含む試料を持ち込み、自分の研究室で引き続き使用したり、利用する予定がないまま保管したりしてしまうことなどが考えられるが、これなども法令違反の責を免れません。

放射性物質等を、無許可で管理区域外や学外へ持ち出さないで下さい。

例えば、放射性物質を含む試料を、時間の経過によって放射能が十分減衰したと判断して管理区域から持ち出し、自分の研究室で保管したり、廃棄したりすることはできません。

緊急時の対応及び連絡体制

(1) 発見者の対応

管理区域外の研究室や居室、薬品庫などで放射性物質、あるいはその疑いのある物が見つかった場合は、みだりに近づいたり、手を触れたりせず、現状を維持し、直ちに発見場所に応じて、表を参照の上、連絡して下さい。

なお、当該連絡先に連絡が取れない場合は、他の連絡先に連絡して下さい。

この時、発見時の状況や発見の経緯、(目視できる範囲で)発見物のおおよその形状や寸法、ラベルや表示がある場合は、その内容を伝えて下さい。

また、担当者が到着するまでの間、部屋を施錠するなど、現場への立入りを禁じ、他の者が近づかないようにして下さい。

表 発見者の連絡先

発見場所	連絡先 (勤務時間内)	(勤務時間外)
農学部	農学部放射性同位元素実験施設 (内線: 3 2 1 8)	守衛室(内線: 3 0 2 6)
医学部	医学部放射性同位元素実験施設 (内線: 2 3 6 0)	附属病院事務当直室 (内線: 3 0 3 0)
医学部附属病院	放射線部 (内線: 3 2 2 0)	0 8 7 - 8 9 1 - 2 3 3 4
その他のキャンパス	研究協力グループ (内線: 1 3 1 2 ・ 1 3 1 3)	守衛室(内線: 1 2 1 5) 0 9 0 - 5 2 7 2 - 5 2 5 2

(2) 連絡を受けた施設での対応

連絡を受けた各施設では、それぞれの施設の放射線取扱主任者にその旨を連絡するとともに、必要に応じて他の施設にも連絡をし、連携して対応にあたること。

現場対応のための作業は、予め線量計を身につけ、サーベイメータや遮へい物を携行するなどして、作業員や現場又はその周辺に居合わせる者への被ばくを可能な限り抑制し、また作業員および周囲への汚染を十分に防ぐ形で行うこと。

発見物表面やその周囲の線量を測定し記録するとともに、発見物表面の汚染の有無を確認すること。

また、発見者に発見時の状況や発見の経緯を聞き取るとともに、発見物の形状やおおよその寸法を記録し、読み取りが可能なラベルや表示がある場合はそれも併せて記録すること。必要な作業が終了後、発見物を安全な容器に収納し、最終的な処分まで管理区域内の廃棄物保管室で保管すること。

発見物の移動後は、発見場所の周囲を汚染検査し、汚染の有無を確認すること。その結果必要な場合は、現場への立入りを禁止する措置を継続しつつ、除染を行うこと。

また、発見物の核種の同定や放射能の測定(管理区域内で)を行うとともに、測定結果などから放射線障害のおそれがないかどうかを推定すること。